

少年の日の夢のせて

北杜市立白州中学校
学校だより
令和4、3、9
NO、12
文責 白倉美奈子



卒業おめでとう！！



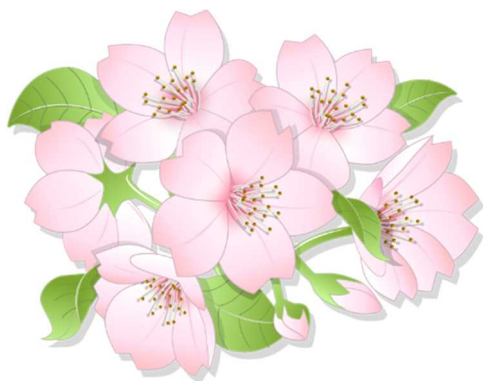
3年生の皆さん、いよいよ明日は卒業式ですね。中学校最後の授業となります。白州中学校みんなの力で、心のこもった式にしたいと思います。

皆さんが3年生になって初めて登校した4月6日のことをよく覚えています。入学式の準備に一生懸命取り組む姿は最上級生としてのやる気に満ちていて、大変頼もしく感じたものです。

秋に実現した修学旅行も大切な思い出です。おいしい食事を堪能しているうれしそうな顔、自主見学を無事に終えて宿舎に戻った時のほっとした顔、足の痛みをこらえながらお坊さんのお話をきいた神妙な顔、友だちと会話するときの笑顔、みんなと一緒にいくことができ、大切な思い出が増えました。

ところで、みなさんは、松下幸之助さんを知っていますか。初めて聞いたという人も多いと思いますが、電機メーカーのパナソニックの創業者です。23歳の時、「松下電気器具製作所」を立ち上げ、現在の「パナソニック」を一代で築き上げた「経営の神様」ともいわれている人です。社長時代、幸之助さんは、入社試験の面接の最後に、必ずある質問をしたそうです。その質問とは、「あなたは、

運がいいですか。」というものです。みなさんならどう答えますか？



この質問に、「運が悪い」と答えた人は、どれだけ優秀な人でも採用しなかったそうです。幸之助さん自身も、「私は運のいい人間だ」と言い続けました。「若いときに 海に落ちて、溺れそうになったけど、夏だったから助かった」「自転車に乗っていたら車にぶつかって線路に投げ出されたけど、電車が2メートル前で止まってくれたおかげで、命を取り留めた」など、普通の人であれば、不幸な出来事として捉える話を、「運がよかった」エピソードとしていたのです。晩年に「あなたは、なぜ成功したのだと思いますか」と聞かれた時も、次の三つをあげています。「家が貧乏だった、小学校しか行っていない、体が弱かった」この三つは、普通の人なら、できない理由に使います。「貧乏だから、学歴がないから、体が弱いからうまくいかない」と言ってもおかしくないはずですが、でも、幸之助さんは「貧しいから必死になって働いた。学歴がないからすべての人から学ぼうとした。体が弱かったから、人に任せて人を育てることができた。」と語っています。幸之助さんは「運がいい」ということを、次々と幸運な出来事が起こることではなく、たとえ、それが客観的に見て不幸な出来事だったとしても、自分の意志でプラスに受け止められる力、ポジティブに捉えることができる力だと、考えていたのではないのでしょうか。だから、入社試験ではポジティブな人材かどうかを見極めるために「あなたは、運がいいですか。」という質問をしたのだと思います。

新型コロナウイルスに振り回されたこの2年は、みなさんに我慢をしてもらうことがたくさんありました。「運が悪かった」と捉えられなくもありません。でも、みなさんが我慢をしてくれたことは、例えば、家族や高齢者の感染予防のためだったり、医療従事者の負担軽減であったり、直接ではないにしても何らかの貢献につながったのではないのでしょうか。また、当たり前前の日常が実はとても大切だったということに気付くこともできたのではないのでしょうか。結局のところ、運がいい人、悪い人というのは存在せず、「自分は、運がいい」と思っている人と「自分は、運が悪い」と思っている人がいるだけなのではないかと思います。「自分は運がいい」と思える人は、あらゆることをポジティブに考えられる人、うまくいったときは、「おかげさま」と周りの人に感謝できる人、うまくいかなかったときには、「うまくいかないことがわかった。どうしたらうまくいくのだろう」と次につながる考え方ができる人のことです。これからの人生、つらいことや心が折れてしまいそうなこともあるでしょう。でもそんなときも、「運が悪い」とあきらめるのではなく、「この出来事は、一体、私に何を学ばせようとしているのだろう」と考えてみてはどうでしょうか。あなたの心次第で、運のいい人にもなれるし、運の悪い人にもなるのです。皆さんには、ぜひ幸運な人生を歩んでほしいと願っています。

中学校卒業後は、それぞれの道を進む皆さんですが、保育園や小学校からずっと一緒に過ごしてきた仲間との絆をこれからも大切にしていってください。そして、白州中学校は皆さんの母校です。うれしいとき、辛いとき、寂しいとき、いつでも遊びに来てください。高校での新生活の様子を話しに中学校に立ち寄ってくれることを楽しみにしています。皆さんの可能性は無限大。未来に向かって自分の人生を切り拓いていってください。

卒業おめでとうございます。